

1. 5月10日分

(1)「幸水」、「彩玉」、「豊水」、「あきづき」の受粉は4月9日～13日に実施。

天候に恵まれ、気温も高かったので結実は良好。幸水の初期肥大はやや遅れているもののその他の主要品種の初期肥大は良好。

(2)「幸水」の長果枝のえき花芽が少なかったため、着果位置が先端部分に偏っている。今後、長果枝の基部から新梢が多発する可能性が高いので、ピンチ(摘心)等の新梢管理を徹底する。

(3)「豊水」は果実ていあ部にごく片が残る有てい果(画像参照)が多い傾向。一般的に有てい果は摘果の対象となるが、有てい果しかない場合は果形の良いものを残す。



(4)「彩玉」も有てい果は多い傾向。ごく片が極端に目立つ場合は摘果ばさみで切除する。

(5)「あきづき」昨年は有てい果が少なかったが、今年は平年並みに多い。育成した国に研究機関によると「あきづき」は有てい果でも通常果と品質に差はないとのこと。

(6)病虫害について、試験場の圃場では黒星病の芽基部発生は見られない。一部生産者の圃場では、黒星病の初期発生が多いとの報告があり、注意が必要。

適期防除ができたため、ナシアブラムシ(ハマキアブラムシ)、ワタアブラムシの発生はごく少ない。

2. 5月19日分

(1)果実肥大状況

「幸水」の初期肥大はやや遅れているものの「彩玉」、「豊水」、「あきづき」の初期肥大は良好。(満開後40日の平年比参照、但し調査が満開30日後から開始しているため満開30日後の比較は記載なし)

「幸水」については、一次摘果を早めに終了し、着果制限により、果実の肥大促進を図る。また、満開後30日～40日に果梗部にGAペーストを塗布するが、新梢管理と合わせて新梢を伸ばしたい箇所の新梢基部にGAペースト塗布すると新梢伸長効果がある。(使用時期厳守)

なお、満開後30日間の平均気温をもとに試算した幸水の収穫予測は、無処理果で8月3日から収穫始と予測しているので参考にされたい。(別紙資料参照)

(2)病虫害について、今のところ目立った病虫害の発生は確認できない。しかしながら一部の現場からは黒星病の初期発生が多いとの報告があり、注意が必要である。